

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2012年4月30日】

団体名 至誠大地の家

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現が「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

児童養護施設 至誠大地の家 海外視察研修事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

昨年10月に開設した当施設は、0歳児からの受入れをはじめ、措置児童の親への支援や親業トレーニング、地域の方々の交流スペース、職員養成の研修所を整備するなど、新しい児童養護施設を目指している。またこの施設における養育にはモンテッソーリ教育の手法を取り入れることから、先駆的に実践を積み上げている本場アメリカの施設を訪れ、より充実した幼児教育実践に向けて視察研修を行う。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

当初、施設の研修として計画を進めていたところであるが、同様の研修が東京都社会福祉協議会児童部会施設長の海外視察研修として企画され、当施設長がコーディネイトの担当者となり、実施に至った。2010年9月5日から10日まで、米国カリフォルニア州ベイエリアの視察研修を実施した。

昨今、児童虐待の増加、児童を取り巻く問題の複雑化の中、福祉先進国の児童へのケア、親への支援、また医療、心理、教育といった連携の現状や取り組みを実際に視察することができた。視察先は、カリフォルニア州立大学パークレイ校社会福祉大学院、サンフランシスコにあるエッジウッドチルドレンズセンターと、イーストベイにあるセネカセンターに訪問した。グループホームや里親支援、教育と医療のシステムも備えた児童福祉施設を実際に見学することで、治療的施設としての、日本の児童福祉施設の近未来像を体感することができた。

セネカセンター理事長と今後も連携を重ね、我が国の児童養護施設実践の向上へ寄与していくことをお互い確認ができた。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

セネカセンター理事長と当施設理事長は約10年前に国際会議で交流があったため、今回改めてコンタクトをとり、視察の実現となった。その後、セネカセンターはイーストベイで児童福祉における多くの先駆的実践を蓄積しており、我が国の児童養護施策の展開へ参考となる多くのプログラムを視察できた。児童虐待により傷ついた児童への治療的機能を持つ学校や、青少年のメンタルヘルス医療的機能のある、医療保護シェルター、グループホームや里親のコーディネイトのシステム等、我が国の児童養護施設が直面する課題への解決的実践を見ることができた。

セネカセンター理事長を近く招致し、児童福祉関係者への講演会を数年中に開催することも計画されている。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

少子化に関わらず、児童虐待対応件数が44000件を超え、増加の一途をたどる現在、児童養護施設の定員数には限界があり、要保護児童への家族の支援が求められている。そして、保護された児童への心理的ケアと社会適応についても現場では多くの課題を抱えさまざまな取り組みが現在行われているが、具体的な未来像が求められている。今回視察を受け入れていただいた、カリフォルニア州ベイエリアの施設では長年そのような課題に取り組まれ多くの実績を積み上げている。今回の視察をとおして、我々児童福祉施設の目指すべき方向性が見え、施設の代表者で視察できたことは、現場の実践者として今後の児童福祉のシステム作りに大きな影響となることを確信した。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり